

公益社団法人日本超音波医学会の各賞受賞者

公益社団法人日本超音波医学会
理事 長 工藤 正俊
顕彰委員会委員長 椎名 毅

平成 30 年度の日本超音波医学会各賞が次の先生方に決定しましたので、ここに載録致します。受賞者の表彰式は、令和元年 5 月に開催された日本超音波医学会第 92 回学術集会の会期中に行いました。

1. 日本超音波医学会第 21 回特別学会賞

竹中 克 (日本大学板橋病院)

竹中 克先生は、循環器領域の超音波研究に関する多くの優れた業績を残されて、超音波医学の進歩に寄与され、その功績は誠に顕著であります。また、後進の育成と研究環境の整備に貢献されました。さらに、本会の各種委員長、評議員、理事長、第 84 回学術集会大会長を務めるなど、本学会の発展に大きく貢献されたことにより、特別学会賞を授与されました。

2. 日本超音波医学会第 18 回松尾賞

工藤 信樹 (北海道大学大学院 情報科学研究科)

工藤信樹先生は多年にわたり超音波の生体作用に関する研究および造影剤としてのマイクロバブルの超音波照射に対する挙動についての実験的解析を精力的に行い、その成果を積み重ねてこられた。特に高速度カメラによるバブルの振動の可視化は超音波医学における非常にインパクトのある業績である。このような同氏の業績は超音波医学における安全性評価や造影剤の臨床応用に対する貢献が顕著であると認められ、松尾賞を受賞された。

3. 日本超音波医学会論文賞 第 33 回菊池賞・第 14 回伊東賞

[菊池賞]

該当者なし

[伊東賞]

Liver fbrosis: noninvasive assessment using supersonic shear imaging and FIB4 index in patients with non-alcoholic fatty liver disease(J Med Ultrasonics Vol.45, No. 2)

Hirohito Takeuchi¹, Katsutoshi Sugimoto¹, Hisashi Oshiro², Kunio Iwatsuka³, Shin Kono¹, Yu Yoshimasu¹, Yoshitaka Kasai¹, Yoshihiro Furuichi¹, Kentaro Sakamaki⁴, Takao Itoi¹
(¹ Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical University, ² Department of Pathology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, ³ Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁴ Department of Biostatistics and Bioinformatics, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan)

C型肝炎ウイルスの排除が可能となった現在、脂肪肝が重要な肝疾患として注目されています。本邦を含め世界中で非アルコール性脂肪肝 (nonalcoholic fatty liver ; NAFL) と非アルコール性脂肪肝炎 (nonalcoholic steatohepatitis : NASH) を含む非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease : NAFLD) が増加しています。年齢、AST、ALT、血小板から計算するFib4-indexは肝線維化の指標として有用ですが、本論文は日本人でNAFLDに肝生検を実施し、supersonic shear imagingでのshear wave elastography (SWE) と肝線維化指標であるFib4-indexを比較し、SWEの有用性を検討したものです。SWEはNAFLDの線維化の評価に有用ですが、シビアな脂肪肝では肝線維化を過小評価してしまうので、注意が必要であると警鐘を鳴らしています。

Fusion imaging with contrast-enhanced ultrasonography for evaluating the early therapeutic efficacy of radiofrequency ablation for small hypervascular hepatocellular carcinomas with iso-echoic or unclear margins on conventional ultrasonography (J Med Ultrasonics Vol. 45, No. 3)

Shuhei Nishigori¹, Kazushi Numata¹, Kuniyasu Irie¹, Hiroyuki Fukuda¹, Makoto Chuma¹, Shin Maeda²

¹Gastroenterological Center, Yokohama City University Medical Center,

²Division of Gastroenterology, Yokohama City University Graduate School of Medicine)

これまで、超音波 B mode で描出可能な多血性肝細胞癌に対する Radiofrequency ablation (RFA) において Fusion imaging ultrasound system (Fusion) による治療効果判定が有効であるとの報告があったが、本論文では超音波 B mode で描出不良な肝細胞癌の RFA においても同様に Fusion による効果判定が有効であることを示した。今後、画像診断の発達により超音波 B mode で描出不良な状態での肝細胞癌の治療が増加することも予想され、本論文は臨床的意義が高いものと思われる。

4. 日本超音波医学会第 18 回技術賞

該当者なし

5. 日本超音波医学会第 20 回奨励賞

[基礎]

超高速超音波断層法による心臓内血流ダイナミクスと流速ベクトルの可視化

長岡 亮 (富山大学大学院)

[体表臓器]

超音波画像を用いた新たな神経ブロック後鎮痛効果判定法の開発研究

千葉 英美子 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

[循環器]

僧帽弁形成術前後の弁尖・乳頭筋動態：全収縮期および収縮後期逸脱における相違
屏 荘史 (産業医科大学)

僧帽弁輪移動距離計測 (TMAD) による駆出率保持された高度大動脈弁狭窄の予後予測
寺口 郁子 (和歌山県立医科大学)

[消化器]

Venous-wave elastography: 肝静脈波形定量化による新しい肝線維化評価法

揃田 陽子 (東京大学医学部附属病院)

[腎・泌尿器]

腎癌に対する凍結療法施行後の腎超音波検査の有用性

乾 将吾 (京都府立医科大学)

[産婦人科]

前置胎盤における 3D 経膈超音波を用いた子宮下部の胎盤体積と帝王切開時出血量の関係

永易 洋子 (大阪医科大学)

6. 日本超音波医学会第8回新人賞

[北海道地方会]

第48回北海道地方会学術集会発表【基礎】

樹状細胞の伸展状態がソノポレーションによる気泡のふるまいと膜損傷の発生に与える影響
松本 龍之介（北海道大学 大学院情報科学研究科）

[東北地方会]

第56回東北地方会学術集会発表【基礎】

音響力学治療用集束超音波の焦点走査による活性酸素生成効率への影響
益子 大作（東北大学 医工学研究科）

[関東甲信越地方会]

第30回関東甲信越地方会学術集会発表【産婦人科】

妊娠初期超音波検査による双胎間輸血症候群の発症予測についての検討
齋藤 水絵（昭和大学 医学部産婦人科学講座）

[中部地方会]

第39回関東甲信越地方会学術集会発表【産婦人科】

巨大子宮動静脈奇形の1例
磯谷 肇男（トヨタ記念病院 産婦人科）

[関西地方会]

第45回関西地方会学術集会発表【基礎】

関節リウマチ診断のための光超音波3D指血管イメージングシステムの開発
西山 美咲（京都大学 医学研究科人間健康科学系専攻）

[中国地方会]

第54回中国地方会学術集会発表【消化器】

造影USで隔壁様の造影所見を呈した腹腔内血腫の一例
岸本 健一（島根大学医学部附属病院 内科学第二）

[四国地方会]

第28回四国地方会学術集会発表【消化器】

肝不全症例における肝細胞癌破裂に対する治療方針決定に造影超音波検査が有用であった一例
泉本 裕文（愛媛県立中央病院 消化器病センター・内科）

[九州地方会]

第28回九州地方会学術集会発表【消化器】

小児腸重積症に対する超音波ガイド下整復の有用性
木下 正和（北九州市立八幡病院 小児救急センター）